



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
☎ 0959(72)3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

「家庭訪問」

「喜びと悲しみを分かち合う」

主任司祭 下口 勲

今年(平成27年)は戦後七〇周年。終戦の年に生まれたわたしは今年、古希(七〇歳)となります。父は六九歳で、長男は四七歳で、次男は六八歳で逝っています。父や兄より長生きできたことを神に感謝しながら、羊のように温順に過ごし、福江教会や教区のため貢献する年にする夢を抱いて司牧七年目のお正月を迎えることができました。「二年の計は元旦にある」と言います。新年の司牧計画は旧年七月から始めている家庭訪問を継続することにしました。お陰さまで週二回巡回の井持浦教会の家庭訪問ははかどり、月二回巡回の

浜脇教会と所帯数が多い福江教会の家庭訪問も予定通り進んでいます。

最初の頃は、世帯主の帰宅時間帯を見計らって夕方に実施していましたが、挨拶程度の訪問でした。しかし現在はこの訪問の仕方を見直し、昼間に、在宅時間が多い後期高齢者の自宅を訪問し、玄関先でなく、客間で本人の半生を聞いて交流を深めています。訪問では配偶者を亡くした高齢者の家庭や、着任後六年の間に、足腰が弱り、主日ミサ参加が困難になっている高齢信徒の家庭を優先してい

ます。

この訪問にはたくさんの方のメリットがあります。いつ訪問しても本人が自宅におられるので、相手の時間ではなく、しばしば自分の時間の都合に合わせて訪問できること、豊かな人生経験を聞くことで、教えられることがたくさんあること、普段、ミサ依頼をして司祭の生活を支えてくれている世代なので、お互いに親近感があること、聞き手のわたしにとって、メモをとりながら本人の半生を聞くことは興味深いこと、四季おりおりの家庭菜園やガーデニングの説明を眺めながら聞くことは世帯主の生活感と趣味が分かって楽しく、時にはお土産に有機野菜をお裾分けしていただいていることなどである。

新年にあたり、キリストはわたしたちに「沖に漕ぎ出し、漁をなささい。」と言われます。去年、開催した教区代表者会議では、教会から遠ざかっている信徒だけでなく、すべての信徒の回心が主要な課題となりました。ここで回心とは、信仰を通してキリストとその福音に

完全に、真心をもって一致することです。一人ひとりの信仰生活も福江小教区の今年度の各委員会活動も、教区シノドスのこの成果を反映させたいものです。また、長崎の教会は、少子高齢、経済優先、世俗主義、無縁社会の挑戦を受けていますので、わたしたち信者は、家族を養うために懸命に働きながら、イエスが歩かれた信仰と愛の道を歩み、親から受け継いだ信仰をしっかりと子供たちに伝えたいものです。



下五島地区 合同堅信式

一月十八日(日)十一時より穏やかな日の中、下五島合同堅信式が福江教会にて高見大司教様の司式で行われた。今回は合わせて十九名の受堅者で、福江教会からは八名(中学生六名・大人二名)が堅信の恵みを授かった。

大司教様は式の中で「堅信の秘跡は洗礼のお恵みを強め、神の子としての使命を強める秘跡です。洗礼の恵みによって神様に愛され神の国に加えられ、小さい時から信者の子供として祈り、恵によって神様の子供となるのです。神様の子として恵みを大事



受堅者に声をかけられる高見大司教様

にして下さい。信仰は愛によって活かし、全ての人を平等に愛する神の子として受入れ、堅信によってさらに力を入れて、教会の一員として一人一人がキリストの愛を証する教会のために行動してください。」と話された。

堅信式の後感謝式が行われ大司教様へ奈留教会の中学生より、先祖達が大事に守り続けてきた信仰を大事に引き継ぎ、祈って行きたいとのお礼の言葉がありました。また、浦頭教会の保護者から「祖先が繋いできた信仰は、神様のもとで天国への熱い思いがあったと思います。少しでも近付く事が出来るよう、また、教会から離れないよう離さないように、共に祈っていただけたらと強く思っています。」と感謝の言葉がありました。

司祭団 マラソン大会 2015

一月二十七日(火)真冬の晴れ間の中、毎年恒例の司祭団マラソン大会が堂崎教会から福江教会までのコースで行われた。

参加者は、司祭二十九名と一般の参加者の中には二名の女性もいた。福江教会の前でスタート前に全員の完走と安全を願いお祈りし、選手宣誓もあった。それから、車でスタートの堂崎教会と浦頭教会に向かい、十時のスタートを待った。

スタート前は、準備運動し「スタート！」の声で一斉に走り出した。同時に、浦頭教会からウォーキングの



部もスタートした。

沿道には、保育園の園児やシスター、各教会から司祭団の応援に信徒が駆けつけた。手作りの横断幕や旗を振りながら特に地元の神父様が通る時には、応援が盛り上がった。コースは、上り坂の長い、ランナー

には苦しいところもあり、その場所での応援は、特に力になったようである。

ゴールの福江教会でも選手のゴールを待つ信徒がゴールテープを張って準備していた。

大会結果は

- 一位 川原昭如神父様 40分09秒
 - 二位 鶴崎伸也神父様 43分10秒
 - 三位 竹谷 誠神父様 44分13秒
- であった。

福江小教区百年のあゆみ

福江小教区の歴代主任司祭 (3)



第十四代 平野勇師

第十四代主任司祭の平野勇師は上黒崎町生まれ。昭和三八年司祭叙階。平成八年に着任した。師はミサが終わると聖堂の前に立ち気軽に話しかけられ、その気配りと気さくな人柄は、多くの信徒に慕われた。師は「ロザリオの折りこそマリア様が一番よこばれる」と、毎日のミサの前にロザリオを唱える信心を始めた。さらに聖堂の改修に指導力を発揮された。また、イエスキリストの生誕二千年前後に福江教会の



舵取りを任せられた師は、二十六聖人殉教四五〇年祭、大聖年記念聖体行列、牢屋の窄殉教一三〇周年など大きなイベントを卓越した指導力で成功に導いた。



改修工事中の福江教会



牢屋の窄殉教記念祭にて(右)



第十五代 濱口末男師

第十五代主任司祭の濱口末男師は、外海町出津生まれ。昭和五〇年司祭叙階。平成十四年四月に着任。市の道路拡張の折、桐が丘墓地の一部移転の大きな重責を背負い、たくさん力を注がれた。小学生を対象に剣道塾「雅風館」と中・高生を対象に聖歌隊、青年を対象にソフトボールクラブを開設された。スポーツマンで特にソフトボールが好きな師は、チーム名を集いの意味の「エクレリア」と命名。ファーストピッチとスローピッチの二チームを市

に正式に登録、新しいユニフォームも作り本格的な活動を始めた。飾り気の無い、純朴で、人間味豊かな人柄で信徒に惜しまれながら、わずか三年で高松教区に転任。その後、平成二三年六月大分教区の司教に叙階された。



牢屋の窄殉教祭にて

に正式に登録、新しいユニフォームも作り本格的な活動を始めた。飾り気の無い、純朴で、人間味豊かな人柄で信徒に惜しまれながら、わずか三年で高松教区に転任。その後、平成二三年六月大分教区の司教に叙階された。



第十六代 小島栄師

第十六代主任司祭の小島栄師は久賀生まれ。昭和三九年司祭叙階。平成十七年四月に着任。五〇年ぶりに帰って来られた師は、自然や社会環境の変わりように驚かれ、自分を平成版浦島太郎と表



小麦作りの様子

現されていた。師は浅子教会主任司祭時代に、教会とその周囲の信者の家に豪華なクリスマスイルミネーションを設置し、マスコミの話題になったが、福江教会でもクレイン車を使って教会正面、ルルドの洞窟、教会前広場に豪華なイルミネーションを設置した。



第十七代 下口勲師

師は、聖体を受ける子供たちのために、小学校の上級生にホスチアの手作り体験をさせた。畑を借りて小麦作りから刈り取り、脱穀、パン焼き、ご聖体の形にカットするまでの工程を参加させ、そのご聖体を初聖体で授けられた。おおらかでユーモアがあり、話し上手な司祭だった。

第十七代主任司祭の下口勲師は、新上五島町桐生生まれ。昭和四七年司祭叙階。平成二一年福江教会に着任。平成二四年は教会献



信徒会館

堂五〇周年、平成二六年の設立百周年に向け、着任してすぐ準備に取りかかった。まず、教会献堂五〇周年を記念し信徒会館落成、高見大司教様の意向により聖堂床を土足履きに張替え、音響設備も一新。信徒の協力で「島の信仰の輝き」を出版。



司祭館

また、百周年の心の準備として、講師を招いてキリシタン時代についての講演会を四回実施した。司祭館の改築は高見大司教様の要請と資金援助を受け、当初の計画を変更し四人住まいとして建設した。その他、教会窓の工事、信徒有志の協力で「信仰のあゆみ」石碑を教会前に設置。さらに信徒の協力で、先祖の信仰の素晴らしさを報せる書籍を計九冊出版するなど、多岐に渡り精力的に活動している。



クリスマス募金活動・ ぜんざいサービス

昨年末も恒例のクリスマス募金活動、クリスマス夜半ミサ後のぜんざいサービスが行われました。募金活動は福祉委員会、ぜんざいサービスは青少年委員会が、毎年師走の慌ただしい中、寒い中を奉仕しています。また、子ども達、シスター方も長時間街頭に立ち募金の呼びかけを行ったり、ぜんざいサービスの手伝いなどを行っています。



クリスマス夜半ミサ後のぜんざいサービス



クリスマスミサ前の募金活動



下五島地区クリスマス街頭募金

活動に携わった全ての皆さん、大変お疲れ様でした。そして、募金に協力下さった方々、本当にありがとうございます。

お知らせ

◆福江小教区年の黙想会

指導司祭 奈留教会 辻原達也神父

日時 2月24日(火)

25日(水)

26日(木)

【午前の部】9時～12時

【午後の部】19時～21時頃

◆信徒発見150周年

記念ミサについて

日本の信徒発見の聖母の祝日を記念し、連続ミサが大浦天主堂にて行われます。13時30分からのミサについて福江教会枠として30名予約しています。定員に達し次第締め切りとなります。評議会

《香典返し》御礼



○鍋内 フイ子様

故 アントニオ 鍋内 清一様

○岩下 雄一様

故 ステファノ 岩下 光徳様

○永尾 マチエ様

故 ペトロ 永尾 八十吉様

右記の方々から香典返しに代え、ご芳志を賜りました。

御礼をご報告申し上げますと共に故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

役員へお問い合わせ下さい。
また、個人でも参列出来ませ
(事前申し込み不要)。詳しくはカ
トリック教報11月号の一面に掲
載(ネットでも閲覧可)されてい
ます。

◆聖週間のミサ予定

聖木曜日(4月2日)

聖金曜日(4月3日)

復活前夜祭ミサ(4月4日)

19時より

御復活ミサ(4月5日)

6時、9時の2回

編集後記

気持ちも新たに迎えた新年も
早一ヶ月が過ぎました。広報委
員会は早くも司祭団マラソンや
堅信式の取材を行い、さらに今
後は信徒発見150周年記念行
事、役員改選の取材などが予定
されており、今年も忙しい年にな
りそうです。

皆さんに、読んでもらえる新
聞を目指して頑張っています。
行事だけではなく、身近な話題
や皆さんの意見もどんどん掲載
出来ればと考えていますので、
御協力をお願いします。(K)